

平成27年度（技術）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に前向きに取り組むが生物育成（栽培）実施経験が少ないため、自分の作業へ自主的に取り組めず、出来ていないことに気づかなかつたり、自信なく全ての指示を求める生徒がいる。 ・家庭科が専任ではないので、授業を連続してできないため、実習が思うように進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時、説明と作業が結びつく指導の工夫をする。（パソコンとプロジェクターを利用して）生徒の作業状況を観察して、説明したことと結びついた助言を個別に与えていく。 ・毎時間の課題を着実に取り組ませる。 	<p>【補充学習】分からないところやうまくいかないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>【発展学習】設計や作業のしかたを工夫し、考える時間を設定する。放課後の時間を利用し個人的に対応する。</p>
第二学年	<p>実習に対する興味関心は高いが、作業説明と実習の結びつきが弱いところがある。</p> <p>同じ作業に飽きてしまい、根気をもった取り組みができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科が専任ではないので、授業を連続してできないため、実習が思うように進まない。 	<p>毎時間、説明されたことを思い起こし、実習に取り組む指導をする。生徒の作業状況を観察して、説明と結びついた助言を個別に与えていく。</p> <p>昨年作品の写真やきれいな実物を見せ、意欲をもたせる。</p>	<p>【補充学習】うまくいかないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>【発展学習】設計や作業のしかたを工夫し、考える時間を設定する。放課後の時間を利用し個人的に対応する。</p>
第三学年	<p>隔週の授業形態しかとれないので、限られている授業時数の中で、基本的な技能が少しずつ積み重なって習得できるよう計画が必要である。日常生活に関連づけた教材の使用や、創意工夫を促す「なぜ」「どうして」と考えさせるような指導方法の工夫が必要である。</p>	<p>家庭生活や地域の中で実践していけるように、主体的・体験的な学習をとりいれていき、生徒の興味関心を引き出す題材を設定していき</p> <p>学習したことが生活に活用できるような展開を持たせるように工夫していく。</p>	<p>【補充学習】分からないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>【発展学習】仕組みを応用し、発展したものを考え、設計する時間を設定する。</p>